

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

もう奇跡とは言わせない! (P2)

チーフカスタマーディーラー
井口慶一

今週のドル円予想レンジ **107.30 ~ 109.50**

りそなWEEKLY COLUMN

人生100年時代を安心かつ豊かに過ごす為に (P3)

埼玉りそな銀行 資金証券部
石井 喜弘

- 積立 (MY年金 = 「あなたの・あなたによる・あなたのためだけの年金」) は必須
- 仕事の創造 = 人生最大の財産である

2019/10/16

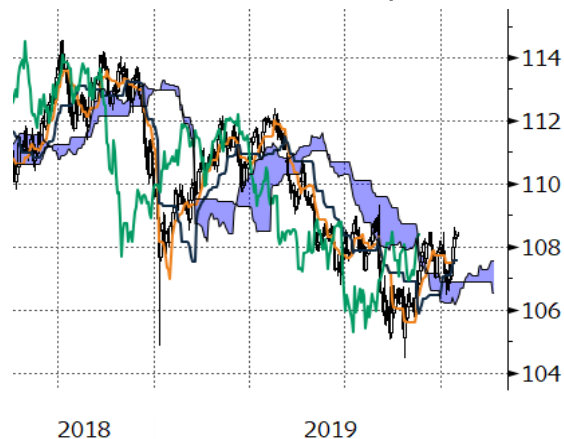
りそな外為レポート

もう奇跡とは言わせない!

今週のドル円予想レンジ **107.30 ~ 109.50**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表 (日足)



◆為替相場のすすめ

先週は、米国の中国企業に対する禁輸措置発表により貿易戦争激化懸念が一時高まったが、週末の閣僚級協議では、中国が米国産農産物の購入拡大や通貨制度の透明性向上等を決定、見返りに米国は15日に予定していた関税率引き上げの見送りを決定。トランプ大統領曰く「重大な第1段階の合意」に達し、急転直下の休戦に至った。散々マーケットをかき乱した挙句、構造問題やファーウェイ禁輸措置問題には目を瞑り、自分勝手にノーサイドを演出し健闘を称えあった。しかも米国は貿易不均衡・為替・知的財産・市場開放の4分野での合意を引き出し、ちゃっかりボーナスポイントもゲットした様子。

選挙に向けて実績作りを急ぐトランプ政権と、成長低迷を警戒する習政権の思惑が一致し妥協した形で、ラグビーと違って感動を呼ぶ奇跡でもなんでもないが、理由はどうあれ足元の大幅な円高リスクは後退しているため、目先のドル円は底堅さを保ちそうだ。しかし！我々はトランプ大統領が手のひら返しスピードスターであることも同時に忘れてはいけない。(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

◆今週の日程

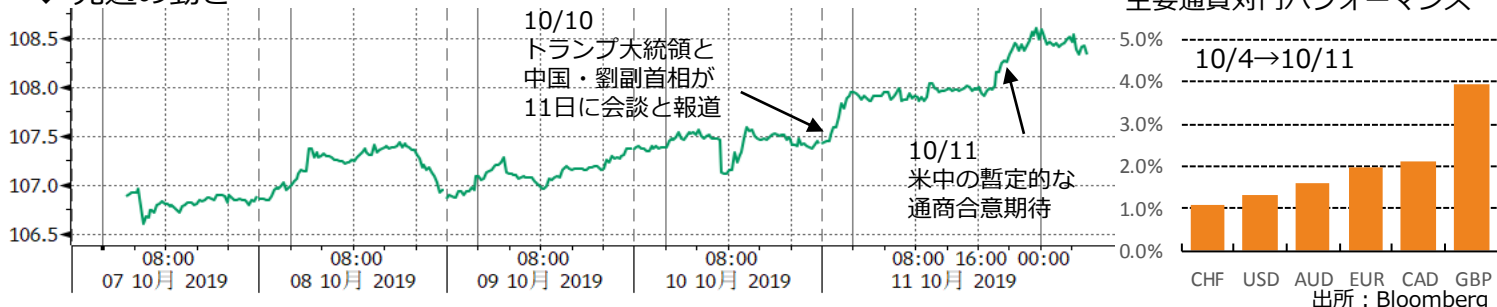
16日(水) 米 9月小売売上高
16日(水) 米 米地区連銀経済報告
17日(木) 米 9月住宅着工・許可件数
17日(木) 米 10月フィラデルフィア連銀製造業指数
17日(木) 米 9月鉱工業生産

17日(木) 欧 EU首脳会議 ~18日
18日(金) 日 9月CPI
18日(金) 中 19/3Q GDP
18日(金) 中 9月生産・小売・投資
18日(金) 他 G20財務相・中央銀行総裁会議~20日

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 10月11日(金) 108.29円 VS 18日(金)

東京							大阪				埼玉					
尾股	中根	湊	井口	鳥井	田中	高尾	中里	藏重	佐藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	伊藤
↓	↓	↓	↑	↑	↑	休	↑	↓	↓	↓	↑	↑	↑	↑	↑	↓

◆先週の動き



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

人生100年時代を安心かつ豊かに過ごす為に

- 積立（MY年金＝「あなたの・あなたによる・あなたのためだけの年金」）は必須
- 仕事の創造＝人生最大の財産である

埼玉りそな銀行 資金証券部
石井 喜弘

人生100年時代のリスク

最近、人生100年時代ということがよく話題になります。日本国民の長寿化に伴い「年金が夫婦で2000万円足りない！」という指摘もありました。

日本を含む世界の多くの国々は年金制度を設計する際、賦課方式（pay as you go）を選択しました。賦課方式では、Aさんから徴収した保険料の全額をAさんのためだけに積み立てるのではなく、すでにリタイアしているBさんへの支払いにも、一部充当します。このような制度は、人口が増え続けている限りは全く問題ありませんが、少子高齢化・人口減少が常態化すると、いずれ破綻します。

少子高齢化は世界的な現象ですが、その中でも日本は高齢者人口の割合が世界で最も高い、人口動態に深刻な問題を抱えている国と言えます。それに加えて日本はGDP比で多額の負債を抱えた国です。このように、人口動態と財政面で日本が直面している問題は世界で最も深刻であり、日本の年金制度は世界の多くの国々のそれと比較して劣後しているのです。

日本の年金制度の脆弱性

マーサー・メルボルン・グローバル年金指数

ランキング	国名	評価	総合指数	十分性 40%	持続性 35%	健全性 25%
1	オランダ	A	80.3	75.9	79.2	88.8
4	オーストリア	B	72.6	63.4	73.8	85.7
11	スイス	B	67.6	58	67.5	83.2
13	ドイツ	B	66.8	79.9	44.9	76.6
15	英国	C+	62.5	57.8	53.4	82.9
17	フランス	C+	60.7	79.5	42.2	56.5
18	サウジアラビア	C	58.9	61.6	53.3	62.6
19	アメリカ	C	58.8	59.1	57.4	60.2
20	マレーシア	C	58.5	45.2	60.5	77.1
22	香港	C	56.0	39.4	54.9	84.2
26	インドネシア	C	53.1	47.3	49.5	67.4
27	イタリア	C	52.8	67.7	20.1	74.5
28	南アフリカ	C	52.7	41.9	46.8	78.2
29	日本	D	48.2	54.1	32.4	60.7
30	韓国	D	47.3	45.4	48.1	49.3
34	アルゼンチン	D	39.2	40.8	33.8	44.1
	平均		60.5	61.1	52.0	71.6

出所：Mercer(Global)



りそな WEEKLY COLUMN

実際、前頁にあるようにマーサー・メルボルン・グローバル年金指数（MMGPI）では日本の年金制度評価は先進国内で最低水準、評価対象国34か国中29位と下位に位置付けられています。

日本は、この年金制度評価項目の中の「持続性」が特に低いです。①年金制度の義務化など登録制度がしっかり確立されており、②対GDP比の年金基金高比率が十分であり、そして③政府債務が低いことの項目で高い評価を得ます。つまり、日本の年金基金量はGDPの大きさに比べて少額であり政府債務が高い（②と③の評価が低い）為、持続性が低いという評価が下されています。

この年金枯渇という人生100年時代を生きる上での大きなリスクを私たちはどのようにすれば回避出来るのでしょうか？

今年の6月に金融庁の報告書をきっかけに「老後資金が2,000万円不足する」との報道が相次いだことを覚えていらっしゃるでしょうか？この2,000万円という額は人によってまちまちですが、今後年金を巡る環境の改善が難しい中、何らかの手当てをしない限り、老後の資金が途中で尽きるというリスクが高まってしまいます。

この対策として、既にiDeCo（イデコ）と積立NISA（ニーサ）という2つの制度が存在します。今後、年金不足の問題は個人の自発的な投資行動により克服されるべきであり、そしてこれらの制度はより若いうちにより早く始めるべきです。

なお、iDeCoや積立NISAは他人に譲渡・流用されない（出来ない）タイプの個人年金で、20年～30年という長い積立期間になるので、後から挽回するのはとても困難になります。

世界に目を向けるとオランダ、フィンランド、オーストラリアなど続々と年金制度改革を達成した国々があります。それらの国々に共通することは「自分が払い込んだ年金掛け金が、自分だけのために積み立てられる」積立方式を採用し、民間金融機関の用意した受け皿（証券口座や投資信託）にて実践するという手法を採っている、ということです。そこには、①民営の安価な運営コストで実現できる、②投資対象を個人が選べるので運用（資産配分）面での失敗が無い、というメリットがあります。つまり、MY年金（年金準備を個人に委ねる）というのは世界の潮流になっているのです。

積立は必須



MY年金は グローバルスタンダード

りそな WEEKLY COLUMN

積立投資の鉄則（コツ）

MY年金は20~30年という長〜い期間の運用になりますが、このような遠い将来に向けてコツコツと積立する場合、2つの鉄則があります。

1つ目は「マーケットタイミングを意識しないこと」です。なぜなら、投資期間が長期になればなるほど、大抵の下落相場は運用期間全体で均すと運用成果に大した影響を及ぼさないことがほとんどだから、です。2つ目は「地道に積立し続けること」です。途中で投資しないことはリスクになります。相場急変を恐れて投資しない期間があると、気がついた時には相場の上昇局面を取り逃していた、という残念な事象がしばしば起こります。投資あるあるですね。「年金積立コツコツ」の精神が非常に重要です。

ここまででは自分年金（=あなたの、あなたによる、あなただけのための年金）が将来路頭に迷わないために重要です、ということをお話しました。

そしてもう一つ私が大切だと感じていること（=人生100年時代を心も財布も豊かに生き抜くための最大の財産）は、夢のマイホームでも貯蓄でもなく、未永くサラリーを得ることが出来る仕事をし続けることです。なぜなら、毎月安定した収入源が確保出来れば、それはあたかも年金のように頼りになるからです。いくら正社員で大企業に勤めていても、いずれ会社人生は終わり再就職するときは十分な収入を得られる仕事に就くことは出来ません。そのランクダウンされた時のことを、あらかじめ視野に入れつつ今のうちに下地（つまり、副業）を作っておく必要があります。そして定年を迎えた時には、その副業が既に軌道に乗っていることが望ましいです。

昨今、IT技術は日進月歩で変化し、私たちの生活スタイルに大きな影響を与えています。このように目まぐるしい変貌を遂げている世の中、これからは今まで考え付かなかったような新しい仕事が溢れてくると思います。一方で、現存する仕事のある程度の部分はAI化・省力化でなくなっていくでしょう。常に新しいビジネスモデルを模索し、自分で新しい仕事を創造するという意識を持つ必要があると思います。

9月23日に、旅行代理店のパイオニア的存在である英国のトーマス・クック社がロンドンの裁判所に破産を申請しました。同社は、団体ツアー旅行の先駆者であり世界一周旅行などの斬新なツアー企画を始め、トラベラーズ・チェックの導入、トラベル・ガイドブックの出版など、旅行業界に革新を起こした会社です。このような歴史と由緒ある企業ですら、インターネットの普及や近年の格安ツアー会社の台頭により淘汰されてしまう、そんな時代だということです。

仕事をし続けられるということは、収入を受け取り続けられることに加えて、世の中に必要とされているということでもあります。どれだけ歳を重ねても世の中に必要とされる人間は、心豊かな老後生活を送ることが出来ると思います。

